

## 〔国際会議開催〕

|        |   |         |
|--------|---|---------|
| 申請者    | 大阪大学大学院基礎工学研究科 助教 関 宏理  | 2185005 |
| 国際会議名称 | The 7 <sup>th</sup> International Symposium on Integrated Uncertainty in Knowledge Modelling and Decision Making (IUKM2019) |         |
| 開催期間   | 2019年3月27日～3月29日  |         |
| 開催場所   | 東大寺総合文化センター (奈良県奈良市)  |         |
| 申請者の役割 | Program Co-Chair  |         |

## 概要：

日常、我々が用いている言葉や思考、判断は極めて曖昧である。たとえば、「彼は非常に背が高い」、あるいは「おそらく速い」のようなものである。このように人間は極めて漠然とした言葉を使ったとしても、それで意味が通じ、理解することができる。一方、機械は高速な計算が得意なものの、「見る」、「聞く」、「直感的に理解する」というような人間が簡単に行えるようなことは苦手としている。このことから、機械のような過度な精密さを求めるよりも、人間のように緻密な計算は苦手であるものの大まかな思考や判断を実現できる情報処理が求められている。

本国際シンポジウム IUKM 2019 では、このような曖昧さや不確実性を有した問題に対して、いかに情報を取り扱い、処理するか、安心・安全・合理的に意思決定を行うことができるか、人間と機械の調和や融合の実現などを目的として開催された。93 件の投稿があり、71 件が採択された。またそのうち特にクオリティの高い 36 件は Springer の LNAI に掲載された (採択率 38.71%)。70 名程度の参加者であったが、20 以上の国からの参加があり、国際性豊かな国際シンポジウムとなり、参加者は第一線の研究者とともに活発な議論を行うことができた。また世界的に著名な研究者を招いて基調講演 4 件を行ったが、参加者へソフトウェアや意思決定関連の最新研究動向を提供することができた。学生を含む若手研究者にも上記話題を提供でき、議論を行えたことにより若手の育成にも貢献することができた。

アジアを中心に開催されている本シンポジウムであるが、今後もアジアから世界へ最新研究動向を発信できることが期待される。